

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0473100204
法人名	特定非営利活動法人 ひまわり
事業所名	後楽庵
所在地 (電話番号)	宮城県遠田郡涌谷町字刈萱町14 (電話) 0229-42-2620
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成19年6月21日

【情報提供票より】(19年 6月 5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	6 人
常勤	5 人
非常勤	4 人
常勤換算	9 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	新築/○改築
建物構造	木 造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷 金	有(円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 円 月額 35,000円			

(4) 利用者の概要(6月 5日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89.6 歳	最低	83 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	涌谷町国民保険病院、木村歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の篤志家から自由に使用してもよいと言われた築80年の民家を改修増築した定員6名のホームである。このホームの理念である「ゆったり、のんびり、家庭的な雰囲気」に加えて、ボランティア活動から法人設立した経緯もあり、地域との関係が深い。直近も、浴場の新設に近い改修を無償で地域の方が施工してくれたり、菜園の手入れ、増設を地域の方が行うなど、地域との良好な密着が図られている。夜勤二人体制で見守りを行っている。また、同一法人のデイサービス事業所が近くにあり、行ったり来たりの関係で入居者のその人らしい暮らしをサポートしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題中、緊急時の応急手当、職員の計画的研修、相談・苦情受付の第三者委員の明示については、改善されている。地震等災害時の避難訓練(夜間を想定)、栄養摂取状況の把握、定期健康診断の支援については、現在取り組み中である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>新たな今回の評価システムについて、運営者、管理者、スタッフが数日間かかりきりで自分たちが行ってきた介護サービスの自己評価に取り組んできたことがうかがわれる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>現在行政の支援のもとに、地域の区長、民生委員、消防団の方々などメンバーを固め、遅くも年内に設置する方向で準備が進められている。今回の評価に際して、涌谷町の担当者が同席していた。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族訪問時に、必ず面談し、利用者の暮らしぶり、健康状態などを報告、必要時には、手紙で伝えている。第三者苦情処理窓口が重要事項説明書に明記され、玄関にも明示しており、誠意を持って対応している。また、家族の会を年2回開催しており、話し合う機会も設けている。利用者家族アンケートでも不満、苦情は見られない。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会にも加入済み。町内会施設の地域交流センターを家族会で使用したり、地域のボランティアの方が畑作りに訪問してくれたり、地域の涌谷保育園、小学校などとの交流もあり、地域との連携がよくとれており、地域にとけこみ支援されている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者家族の負担を軽減し、家庭的な雰囲気のなか、地域の中で利用者一人ひとりの思いにあった暮らしを支援するという思いを独自の理念に盛り込んでいただきたい。	○	法人の理念としての書面はあるが、地域密着型サービスとして、日々実践していることをわかりやすい文言であらわした事業所独自の考えを盛り込んだ理念に見直すべく検討を進めているというホームの意欲に期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ会議、日々の申し送りそして日常の利用者へのことば掛け、介護の関わりのなかで一人ひとりの思いを聴き、その思いにあった暮らしを支援するよう努めているが、充分とはいえない。	○	管理者、職員が日々の介護の中で理念の実践、共有化に努めている。今後、スタッフ会議など定期的に行なっているミーティングなどで、事業所独自の理念について掘り下げて意見交換を図り、具体的なケアの実践をさらに促進して欲しい。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設の建物を地域の篤志家から提供されており、町内会にも加入済み。町内会施設の地域交流センターを家族会で使用したり、地域のボランティアの方が畑作りに訪問してくれたり、涌谷保育園、小学校などの交流、文化祭への参加も行っており、地域に溶け込み支援されている。さらに、地域参加を進めて頂きたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	新たな今回の評価システムについて、運営者、管理者、スタッフが数日間かかりきりで自分たちが行なってきた介護サービスの自己評価に取り組んだ結果、自己評価の意義が十分理解でき、引き続き取り組んでいる。さらに改善に向けて、具体案の検討、実践に取り組んで欲しい。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議をまだ開催できていない。	○	現在、行政と相談し、設置のための検討を進めているとのことなので、涌谷町担当箇所の支援を受け、地域の区長、民生委員、消防団の方々などメンバーを固め、遅くも年内を目途に、運営推進会議を発足させてほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議設置に向けての相談実施、町からの依頼で短期入所者の受入れ実施など、町担当者との連携が密接に取られている。今後も、さらに連携を強めていただきたい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族訪問時に、必ず面談し、利用者の暮らしぶり、健康状態など報告している。遠隔地の家族や必要時には、手紙、電話で伝えるようにしている。事業所便りを以前は発行していたが、個人情報保護法の点から現在は中断している。また、金銭管理は行なわず、その都度家族に連絡し、用意してもらっている。	○	中断している定期的ホーム便りを本人や家族の了解を得て発行の復活を検討して欲しい。また、家族訪問時の記録を作成し、スタッフ間での情報共有に役立てていただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の会を年2回開催。利用者家族アンケートでも不満、苦情は見られない。前年評価時、第三者委員苦情処理窓口名や地域第三者委員名、電話等明示されていなかったが、その後、重要事項説明書に明記し、更に玄関の見やすいところに明示し、改善されている。また、NPO法人介護ネットにも窓口を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	研修期間を1ヶ月間設け、3人体制を取り、夜間勤務にも入ってもらうなど馴染みの関係を作るための具体的な取組を行なっている。今後とも継続して取り組んでいくよう期待したい。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同じ地域にあるグループホームで行なわれる交流会やリハビリ研修会にスタッフを参加させるなど、地域での研修機会の確保を進めている。その際、外部研修で得た成果を共有化するための方策として、報告会を開くなど検討して頂きたい。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地域にある社協事業所グループホーム主催の研修会に参加するなど地域の同業者との交流を進めている。また、地域包括支援センターとの交流も行なっている。今後は、スタッフについても交流を進めることにより、サービスの質の向上につなげることを期待する。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同一法人デイサービス事業所とは、相互訪問等の交流を普段から継続実施しており、このデイサービス利用者からの入所が多く、馴染みの関係が出来ている。今後とも継続して取り組まいたい。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の今までの経歴、生活歴等を本人や家族から聞きだし、人生の先輩としての経験や特技等をひきだして共に暮らすよう留意している。夜勤二人体制をとり、本人と共に過ごし、支えあう関係をより密にしている。利用者とスタッフ間の信頼関係から言っても大切なことであり、今後とも継続して取り組んで頂きたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話が難しい利用者には、表情、手ぶりなどの動作から、把握するよう努めている。なお、利用者スタッフとの信頼関係をより確かなものにしていくことで、本人の意向を容易に引き出せるよう取り組んでいると言うホームの姿勢に期待する。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人との日常生活の中からの思いや希望を把握し、家族からは訪問時に意向を把握し、その状況をスタッフ会議で出し合い、介護計画に反映する努力はなされているが、充分とはいえない。	○	介護計画は利用者の暮らしの羅針盤である。スタッフ会議の開催を3ヶ月1回以上、定期的に行い、作成した介護計画のスタッフへの浸透、更にアイデアを出し合い、チームとしての介護計画を作り上げて欲しい。更に、モニタリングの集約が次の目標につなげられるようにして欲しい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日ごろの本人との暮らし、見守りのなかで、変化を見逃さないように努めている。また、変化が生じた時点で家族へ連絡すると共に、スタッフ会議で対応を検討し、計画の見直しに努めているが充分とはいえない。	○	スタッフ会議は周期にこだわらず変化があった場合など必要都度開催し、スタッフ間での情報共有、介護計画の共有を図って欲しい。また、介護計画の見直し都度、家族への同意を従来通り図って欲しい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院・外出・外泊など、家族と協力して柔軟な支援をしている。また、空室がある場合、短期入所を行なった実績がある。今後、自宅で暮らす認知症利用者のデイサービスへの受け入れを検討しているとのこと。地域密着、多機能を活かした柔軟な支援の観点から期待し見守りたい。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医との関係を築いている。家族同行での受診が難しい場合には、受診に同行している。家族とは電話、手紙などでの受診状況把握に努めている。今後は、往診も得られるよう連携、協力を働きかけているとのことであり、期待したい。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族と入居当初から、何度となく話し合いを行っているが、記録の作成はおこなってない。	○	重度化や終末期に対する対応方針を定め、家族、かかりつけ医を交えて話し合いを行い、意思確認書等の記録として残して欲しい。また、状態変化があるごとに、三者の話し合いを行い都度記録を残すようにして欲しい。ホームとして取り組みたいと言っている、アンケート方式により確認する方策も採り入れてよいと思われる。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	重要事項説明書、運営規定に秘密保持条項の記載があり、玄関には法人としての秘密保持規定を掲示している。日々の介護の中では、本人への言葉掛けや排泄の際に、人前で恥ずかしい思いをさせないよう配慮した対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れで進めているが、時間を区切ったような取り決めはしておらず、一人ひとりの状態や思いを尊重しながら柔軟に対応している。今後も継続を期待する。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	女性だけの利用者であり、敷地内で栽培した菜園から自ら収穫した野菜や地域の方から差し入れされた食材からメニューを一緒に考え、野菜の下処理、盛付、片付け等で利用者が出来ることを一緒行なう等、得意とすること、出来ることを一緒に行ない、食事全体を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	古くて不便であった浴場を、地域の方から奉仕を受けて、昨年バリアフリーの新型浴場に改築し、利用者は一層入浴を楽しめるようになった。夜、寝る前の入浴を基本とし、利用者の体調や拒否の状況に応じて、足湯、休むなど柔軟な対応をしているが、日中の時間帯でも入れるよう配慮していただきたい。	○	今後、利用者からの要望によっては、日中の時間帯でも入浴可能な体制を作るようにしていきたいとする、ホームの熱意に期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、草取り、洗濯物たたみ等、利用者が自発的にやろうとすることに感謝の声をかけしながら行なって貰っている。また、近くのディサービスとの連携で折り紙等の楽しみごとを一緒に行なっている。今後とも、やりがいや喜びを更に大きなものにしていくため、スタッフの対応を徹底すると言うホームの意気込みに期待する。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	田植え時期の見学など馴染みの場所での季節感が実感できるような外出支援を実施している。また、外出が難しい利用者には、近くの桜の名所の花見が出来るようにする等の戸外に出かけられるように工夫し、実施している。今後も、継続して取り組んでいくよう期待したい。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけないケアを実施。また、一人で外へ出る可能性がある利用者は、地域住民の協力も得ながら、常に所在確認を実施している。また、柵がない堀があるために危険防止対策上、細心の注意を払っている		現在、安全を確保するための「庭作り」を検討しており、財政上の問題もあるので、法人内外に働きかけを行っているとのことであり、早期実現を望みたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導、協力を得て、火災時避難訓練を実施したことがあるが、定期的な避難訓練は実施していない。夜勤二人体制をとっている。	○	町の担当者との相談、協力を得て、地域の消防団との相談、協力をお願いし、夜間避難訓練を含む避難訓練(地震対策を含めて)を定期的実施して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個人ごとの毎日のチェック表により、日々の食事の量、水分量、与薬等を記録している。また、体重測定を定期的実施している。	○	町の担当者の方と相談し、町の保健所の管理栄養士などの協力を得られるようにして、栄養の専門的な観点からの助言を定期的(月1~2回)に受けて欲しい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴場の改築、菜園作りなど地域の方々の強力な支援もあって、居心地のよい共用空間作りが行なわれている。近くの小学校からの子供の声が聞こえるようにしたり、菜園からの花を飾ったり、利用者が作成したものの飾りつけを行うなど、季節感、生活感が感じられるように環境作りを工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッドと入り口との関係が家庭と同じようになるよう配置したり、馴染みの写真、小物が飾ってあったりと、居心地よい居室作りに細やかな配慮をしている。カーテンは防炎加工のものを設置している。		